

12 【 仙台市立秋保小学校】

秋保小学校

校歌

土井 晩翠 作詞

作曲 福井 文彦

一 大東岳四千尺 ふもとをもとの名取川

途に不動の大滝を 含みて海にそそぎいる

宮城の村の秋保村 和が学園のあるところ

二 金剛たえてつるがさる 国の姿とそそり立つ

磐神岩を仰ぐとき 千歳古き名湯の

玉なす中に ひたるとき 感謝は郷にまた国に

三 この名邑に生まれいで この学園に教えうけ

強く正しく明朗に 日々につとめて 身と心

ねりてきたえて一斉に 国と郷とにつくすべし

秋保小学校は、明治6年に前身となる学校が開校した歴史ある学校です。秋保という地名も古くから知られており、紀貫之の古今和歌集にも「秋保の里」が記されています。校木はヤマモミジで、春には薄紅に芽吹き、夏は緑、秋は鮮やかな紅葉となります。校章は昭和23年に制定され、「山紫水明の地、偉人傑士を生む」と伝えられているとおり、秋保からは政治家・教育者、その他多数の方々を輩出していることをイメージしたそうです。郷土を愛する情熱を、赤の正三角形の大東岳。潔白な心を白の山桜に例え、コバルト色の葉で健康を表し、躍進する秋保の姿を現しています。

さて、校歌についてですが、秋保の名勝ともいべき大東岳と秋保大滝を1番に、磐司岩と秋保温泉を2番に配し、秋保小のみならず馬場小・湯元小でも歌えるようにしています。つまり、秋保地区三校共通の校歌であり、秋保地区の誰もが卒業後も親しく口ずさむことができるようになっています。

さらに3番には校訓である「強く・正しく・明朗に」の一説が入り、秋保っ子の気概と誇りの高さを垣間見ることができます。